

2015/6/1

しろひげ@Kurobane です。

6月になりました。

—爽やかな高原の風の中で—

月山の麓に広がる“高原牧場”で、初夏に移ろう自然を感じてきた。

空の青さは山頂の残雪を鮮やかにし、雲はゆっくりと流れ、時おり牛ののどかな声が静寂を破る。

先月 19 日から放たれた牛たちは、草をはみ、美味しい空気を吸い、やがて逞しい姿へと変わっていくのだろう。

おにぎりをほおぼる私たちに、どこからともなく蚊が飛んできてうるさくつきまとう。

暇人や蚊が出た出たと触れ歩く 小林一茶

Deng熱などという野暮なことは忘れて、しばし、暇人は呆けた顔で自然の一画を切り取った静止画に見とれている。

頬のあたりにわずかに感じる風に、いちばん好きな子規の句が口をついて出る。

六月をきれいな風の吹くことよ

34年の短い命を全身全霊、前向きに生きた子規さんは、六月の風を全身で受けることで、“綺麗な眼と心”を思い出せと語りかけてくる。

帰りの道々には、盛りの過ぎた山菜を探すために、山中に入る人々の車が止まっている。

目に眩しいほどの緑を浴びながら坂を下れば、眼の前に田植えを終えたばかりの庄内平野の水田が広がる。

生あるものすべてが踊る六月。

来月には言葉を覚えて、見るもの聞くものが珍しく、楽しくて仕方がない孫がやって来る。

伸び盛りにある命は、美しい庄内で、綺麗な眼と心を存分に弾ませてくれるだろう。

黒羽根整形外科

黒羽根洋司